



「ひらほく新聞」で検索！
★ホームページ・ひらほくランド★
http://www.hirahoku.com/
☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を
閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 編集長 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

なな笑梅性み生は
ワクワクした未来を決める
ハハハは自分自身
何より自分との約束を守る
つも一日一生高へ向け本気で
仲間を刺激しあり
びく信じて切磋琢磨
の積み重ねが実力を磨く
もとの出逢いは寄せ寄せ
すべての出来事に意味がある
より苦に喜ぶ向かい
ふさわしい人 恋した未来へ
い遠く宇宙からつぎは
誰もあきらめず無限の可能性
たり継ぐ責任 次世代の
いかなんか感謝は恩返し
有難い日本人の生き方

「あなたは自分の未来に恋をしますか？」。年末年始に出会った沢山の素晴らしい書籍たちから共通して受け取ったのは『未来のとらえ方』。奇跡的につながり、いただいたこの命は、何のために使うのか。誰もが唯一平等に授かっている大切な『時間』を決して無駄遣いしないように、一日一日のしつかりとしたぶれない思いがいかに大切な、あらためて実感した内容からご紹介します。
映画化されて有難く上映会も開催させていただいた『また必ず会おう』と誰もが言った『また』等、大切な教え満載の書籍や講演会の内容をこれまで何度かご紹介してきました、作家・喜多川泰さん。その新春発売の最新刊、『秘密結社 Ladybird 僕の6日間』は、若い世代へ「未来への希望の種」をもたらしてくれ、また人生の折り返しを意識する大人たちには、今後のあり方を見直すことのできる素晴らしい感動あふれる内容です。



1,400円+税

未来ポイント① 『自分との約束を守る』
中学生たちで結成した秘密結社の目的は、7人の力を合わせて、一人一人では決してたどり着けないような目標にでも手が届くものにして、自分の本当の目標を達成しようというもの。
ただ、一人でも頑張れば動かせるようなものをみんなで持ち上げてという意味がない、だれか一人が頑張つて、それにぶら下がって自分も甘い汁を吸おうという馴れ合いの弱い集団ではなく、一人一人が最大限に努力して自分を磨き、自分だけでも他の人より重い荷物を持てるようになった7人が力を合わせて、さらに大きな

未来ポイント② 『ふさわしい人』
秘密結社 Ladybird が結成されてから30年後、主人公となる高校生が、偶然にも秘密を知ることとなる。その主人公、桜山颯太へのメンバーからの教え。
◎自分との約束をどのよう

「ふさわしい人 三年五組 二階堂肇
僕は、正月になると神社で毎年お願いをしていることがある。それは、『僕は努力をする。だから、それにふさわしいものを与えてください』という言葉だ。
それ以上でも嫌だ。それ以下でも嫌だ。自分の努力にふさわしいものが、自分の将来に手に入るそんな生き方をしたい。
そして、それが与えられると信じている。
だから、僕はどこまでも、どこまでも頑張る人でいたい。
僕は、自分のやってきたことにふさわしい人になりたい。」

荷物を持ち上げる強い集団を目指さないといけない。
そのためには、一人一人が他人との約束を守るように、『自分との約束を守る』こと』が必要になる。これはずごく難しいことで、他人との約束をしっかりと守っている人でも、自分との約束を守り続けられる人はなかなかいない。そんな強い意思を一日一日と継続させていけば、それだけでも周りの人がたどり着くさらに上の目標を達成できる。
一番難しい『自分と交わした約束』がいつの間にかLadybirdのメンバーと交わした約束に変わっていった。
『目標を達成したいと思っ

未来ポイント③

『大人の役割』

「Ladybird」のメンバーそれぞれが実現してきた夢は、一代で終わる夢。(30年を経て48歳からの)第二段階は一代では終わらない夢を持つ。その生き方そのものを次の世代に伝えるんだ」

「子供の頃に戦争を経験している親や先生たちに私たちは、育てられた。当然、子供達にはあんな辛い経験させたくないと思いが思っていた。自分の意思とは無関係に戦場にかかり出されたり、明日食べるものに困ったりするようなそんな日本にしてはいけないって必死だった。次の世代には、自分たちが経験した不自由さを経験させたくないと思

った。だから、必然的に『個の自由』が大切にされた。人生、好きなことをやって生きていいんだ、やりたいことをやって夢を実現して素晴らしい人生を送れって、みんな後押ししてくれた。それが、大人たちの私たちに對する願いだっただ。そして、俺たちはそのま

まに生きてきた。自分の欲望、夢を実現する生き方は素晴らしい生き方だと信じて、疑わずにそれに向けてひた走って生きた。そして、多くの同世代の奴が今もそう生きている。

だけど、そうやって生きてきた俺たちが次の世代に残すものは何だろうか…。

そうやって考えたときに気づいた。

俺たちの親だけじゃない。その前の世代も、その前も、ずっと…大人たちは、次の世代を幸せにするために必死だった。それこそ命がけて自分の子供たちを、そしてこの国の子供たちを幸せにするために、人生を使っていた。それが『大人の役割』だった。

だから俺は、人生の半分を使つて、自分の夢を叶えるだけの力を育てたら、残りの半分の人生はそれを、自分のためではなく自分よりも大切な若者たちのために使おうって決めていた。

一代で終わる夢を、一代では終わらない志に変えて次の世代に…」

未来ポイント④

『予祝のススメ』

「未来のとらえ方」として、年末に拝読した、『実践！世界一ふざけた夢の叶え方』(ひすいこたろう・菅野一勢・柳田厚志 共著)より、ひすいこたろうさんの一話をご紹介します。

◎古代日本人の夢の引き寄せ法「予祝のススメ」

なぜ日本人はお花見をするのか？

僕はこのことを、ある神社の神官の方に教わったのですが、実は、お花見こそ、古代日本人が実践していた、夢(願い)を叶えるための引き寄せの法則だったというのです。

古代日本人の一番の願いは、稲がたわわに実り、お米がしっかりとれることです。その願いの実現を引き寄せるためにやっていたのが、お花見だということです。どういふことか？

のです。

先に喜び、先に祝うことで、その現実を引き寄せるというのが、日本人がやっていた夢の叶え方なんだそうです。

お酒を飲みながら、お米がたわわに実ることを想像し、仲間とワイワイ先で喜んでしまおう「前祝い」。

それが夢の引き寄せであり、お花見の由来だったのです。まさに、僕らがセカ

フザ(世界一ふざけた夢の叶え方)の定例会でやってきたことそのものです！

先に祝福してしまおう、するとその夢は現実化しやすいのです。この「予祝」効果は僕らも怖いほど体感しました。

ムランをかつ飛ばしたので

す。プロ野球が国民的スポーツになった瞬間でした。

実は天覧試合前、長嶋はスランプのドン底にいました。だからこそ、本能的に「予祝」をやって臨んでいたのです。

長嶋さんは、最寄りの駅でありつたけのスポーツ新聞を買ってきて自分で見出しを書き込んでいたので。用意した赤、青、黄色、緑のマジックで、新聞一紙ごとに「長嶋サヨナラ本塁打」「天覧試合でサヨナラ打」などと大きく書き込んでいったのです。

「長嶋の一発に尽きる。さすがにゴールデンキー1。歴史に残る一発だ」

そんなふうで監督談話まで勝手にマジックで書き上げ、先に喜び、祝杯をあげていたのです(笑)。

たについてくるんです。

いかがでしょうか。叶った未来を前祝い、予祝を盛大にやっちゃいましょう。

未来ポイント⑤

『引き寄せの法則』

「借金2000万円を抱えた僕にDSの宇宙さんが教えてくれた超うまくいく口ぐせ」(小池 浩著)より。

借金まみれのコイケが、DSの宇宙さんと出会い、そこから、宇宙さんに教えてもらった掟に従って行動していき、最終的には人生大逆転をするという話。

宇宙さんの教えとは「夢が叶った未来の自分からのメッセージ」。すべての出来事は自分の思いや使う言葉どおりに起きているという「宇宙のしくみ・引き寄せの法則」を真に分かりやすく伝える物語でした。

まちゃんや、「ありがとう」

という会社を創った人など、これで人生が変わったという人が身近にもたくさんいます。いかに信じて実践を続けるか、だけです。

編集後記

サンマーク出版、鈴木七沖編集長から喜多川さんの新刊書籍「秘密結社…」のとても分かりやすい紹介動画が配信(ひらほく新聞紹介サイトでご案内します)された1月19日、キングコング西野亮廣さんの大ヒット絵本『えんとつ町のプペル』が、無料公開されました。いまだ賛否両論、大きな反響がありますが、自分はその決断に賞賛を送りたいと思います。一人でも多くの子どもたちに届くことを祈ります。

喜多川さんは、新著のあとがきで近年の日本で希薄になっている『お天道様は、いつも見ている』という教えの重要性を伝えていました。みやぎぎ中央新聞1月23日号に、『朝を制する者は一生を制する』と、「いい一日」を送る秘訣、「強い心」を身につけるための「早起き」習慣の実践が紹介されています。先人の教え、生き方を有難く習い、実践を継続、次世代へ恩送りしていきましよう。